

令和3年度 大田区立池雪小学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要

○学校規模……児童数:912名・学級数:27学級
○本校の教育目標……よく考える子ども 思いやりのある子ども がんばる子ども じょうぶな子ども
○本年度の主な取組……研究授業とワークショップによる校内研究、教科(理科、生活科)
○特色ある教育活動……国際交流(東京工業大学留学生・東京朝鮮第六初級学校) 池雪いきいき応援隊(学校支援地域本部)と連携した教育活動 校内研究と授業観察を関連づけた授業改善

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	関係者記入 評価 人数	
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	児童の自己評価において「話をよく聞き、すすんで自分の考えを発表している」の項目で、A(とても思う)B(思う)と回答した児童の割合	4:90%以上	○「話をよく聞き、すすんで自分の考えを発表している」の項目に肯定的な回答をした児童の割合は、77%。 ○学ぶ意欲の伸長を目指してICT活用を推進。校内研究や研修の実施により、タブレットの使用時間が増加。教員と児童のスキルアップにつなげている。 ○外国語専科とALTの連携により、楽しく意欲的に学ぶ外国語が展開できている。 ○コロナ禍で話し合い活動などが実施しにくい状況は昨年度と比べていないため、タブレットの活用を積極的に進めている。 ○高に出ているかどうかで判断している児童が多いと考えられる。表現方法についてわかりやすい質問になるよう工夫する必要がある。	A 4	
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのみのづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3		3:85%以上			B 4
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	4		2:80%以上			C
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4		1:80%未満			D
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4					
プラン2 児童・生徒一人ひとりの学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学力を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	児童の自己評価において「学習にすすんで取り組んでいる」の項目で、A(とても思う)B(思う)と回答した児童の割合	4:90%以上	○「学習にすすんで取り組んでいる」の項目に肯定的な回答をした児童の割合は80%。 ○ワークショップ形式による研究や理科、生活科の研究授業を通して、教職員間で実践を共有することができ、授業改善が進んだ。	A 8	
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2～3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	3		3:85%以上			B
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	4		2:80%以上			C
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4		1:80%未満			D
		理科・生活科を通して校内研究を推進し、問題解決に主体的に取り組む態度を育成する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4					
プラン3 子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	児童の自己評価において「きまりを守り、他の人に迷惑をかけないように生活している」の項目に肯定的な回答した児童の割合は、92%。 ○学校生活調査や中学年のQUの結果分析により、必要な支援ができるよう活用した。支援員の活用による不登校対応も進めている。 ○あいさつや時間を守ることについては、重点目標として全教員が継続して取り組んでいる。	4:90%以上	A 8		
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	2		3:85%以上		B	
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4		2:80%以上		C	
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4		1:80%未満		D	
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておおむね会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	4					
		年間努力目標「自らすすんであいさつをしよう」時間を守ろう」について継続的に指導する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4					
プラン4 スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	児童の自己評価において「早寝早起き朝ごはんができて」「すすんで運動している」の2項目で、A(とても思う)B(思う)と回答した児童の割合	4:90%以上	○「早寝早起き朝ごはんができて」「すすんで運動している」の項目に肯定的な回答をした児童の割合は、それぞれ80%と82%。 ○「かんたんでおいしい朝ごはん」の掲示などにより、よりよい食生活について啓発。 ○マラソンの電子化により、池雪マラソンに取り組む意欲が向上し、校庭300周走破する児童が増えた。 ○小学生駅伝大会の記録も向上し、区内で上位の成績を収めた。	A 5	
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4		3:85%以上			B 3
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4		2:80%以上			C
		3密対策や児童への指導、家庭との連携により、コロナウイルス感染リスクを低減し、健康管理への取組を継続して実施する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4		1:80%未満			D
プラン5 児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりたい。	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりたい。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	保護者の学校評価において「学校は、授業中の話の聞き方や発表の仕方など、学習のきまりが守られ、落ち着いた雰囲気の中で学習が進められよう心がけていると思いますか」の項目に肯定的な回答した保護者の割合は79%。 ○学力向上につながる授業力が育成できるよう、若手のニーズに応じたOJTを推進している。 ○公開などが十分できていないため、「わからない」という回答が多い。「わからない」を除くと、90%が肯定的な回答。	4:90%以上	A 1		
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	4		3:85%以上		B 5	
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4		2:80%以上		C	
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2～3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4		1:80%未満		D 2	
		各支援員やスクールカウンセラーなどと情報を共有し、連携して児童を支援する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4					
プラン6 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	保護者の学校評価において「学校は、保護者・学校・学年・学年より、ホームページ等を通して学校生活や教育内容について、保護者に分かりやすく伝えていただいていると思いますか」の項目で、A(とても思う)B(思う)と回答した保護者の割合	4:90%以上	○「学校は、保護者・学校・学年・学年より、ホームページ等を通して学校生活や教育内容について、保護者に分かりやすく伝えていただいていると思いますか」の項目に肯定的な回答した保護者の割合は81%。 ○今年度もコロナの影響で学校公開や行事への保護者参加については、制限が加わり、保護者の希望は十分にならなことができなかった。動画の活用などを工夫して発信している。	A 5	
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	4		3:85%以上			B 3
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4:学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	3		2:80%以上			C
		発達段階や実態を考慮した課題を出し、家庭学習を支援する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4		1:80%未満			D

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
 ○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。
 ○「学校関係者評価」の評価は、A、B、C、D、Eと評価は適切である。D、Eは評価は適切ではない。D、Eは評価は適切ではない。D、Eは評価は適切ではない。